

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念を基に、地域密着型サービス事業所としての視点を踏まえ、利用者と一緒に(ブレインストーミングを用いて)、考えた方針をまとめた理念を掲げ、取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に、利用者と一緒に、職員が理念を復唱すると共に理念を名札の裏にも記載して、全職員が共有できるよう取り組んでいる。理念に基づく方針は、できるだけ職員が分かり易く、簡易に取り組めるよう事業日誌に記載し周知できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、入居時や行事などの機会に、また、地域の人々には、運営推進会議や夏祭り、講演会、市主催の健康フェスティバルなどで説明し理解をもとめているが、十分に浸透しているとは言い難い状況下である。	○	地域の催し物などにも出かけ、理念の浸透が図れるよう推奨しているが、十分浸透しているとは言い難い状況である。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	また、日常的に散歩や買物などに出かけ、親しくなった方の畑から玉葱、じゃが芋、大根なども取らせていただいている。また、他の事業所の人達と陶芸教室にも参加し、交流を深めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも属し、地区社協の理事、社協の評価審査委員を担っている。ホームは、地域とのふれあい祭り、園芸、畑の作業、ふれあいお茶会などを通して地域との交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ケアケア交流講座、に職員が進んで参加し、認知症の方への支援方法や、介護の悩み事などについて一緒に話し合い、解決方法を探ることで、地域住民の認知症への理解が深まるよう取り組んでいる。	○	認知症への予防、介護者の悩みなどが気軽に相談できるホームになるよう、これからも努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員自らが自己評価項目に記入し、自らのケアの振り返りを行い、日々、提供しているサービスの向上が図れるように、管理者、職員間で業務改善に取り組んでいる。	○	管理者、職員が自己、外部評価の意義や生かし方を理解して、活用しながら、具体的改善策を考え利用者が安心してその人らしい生活ができるよう、一丸となり取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果報告を行うと共に、ホームでの生活の実体験をする機会を設けたり、困難事例を通しての市、地域包括センターなどとの協力体制が取れるよう努力している。また、ホームと自治会自衛防災への協力体制の在り方などを、具体的に今検討中しているところである。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者問題を考える会(講演会、研修)を通して、市長、市職員、地区社協、民生委員、職員が共に協力し、地域の介護力が高まるよう取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についてはフロアに掲示し、本人、ご家族など関係者が閲覧できるようにしている。また、家族などの申し出がある場合には関係機関に連絡調整の支援ができるように体制を整えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会において、高齢者虐待防止対策についても、検討する機会を設けている。また、職員のストレスを溜め込まないよう職員の困り事相談は、管理者自らが時間を設け話し合う場を持つように対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族などが不安や疑問などについて話せるよう配慮し、具体的なホームの説明を行い、納得を得た上で手続きをしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から選出されたメンバーが運営推進会議に参加し、意見や思いを伝える機会を設けている。また、外部の熟練した相談員が月に一回程度、利用者の表情や意見を見聞きするために訪問し、その様子、結果について報告を受け、検討する機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月に一回程度、定期的に利用者の暮らしぶりや健康状態などについて、写真を添えて利用者家族に報告している。また、来訪時にも近況の報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の提示や苦情箱を設置している。近況報告、ケアプラン作成時の郵送物などには、必ず事業所や介護の現状などについてのご意見・要望を記入できる欄を設けている。ご面会時にも、ご意見をいただけるよう配慮している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、職員相談カードで提出してもらっている。また、職員アンケートの結果で改善事項を見出し、それらを職員、管理者双方での業務改善委員会などで検討の上、運営、業務に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や職員との馴染みの関係を大切に勤務割を調整し作成している。朝、昼、夕食の準備に人手がいる時は、多く配置するよう心がけている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所間での異動は行っていない。新規採用者には、現職員が当ホームの業務や認知症の方々とのコミュニケーションに慣れ、利用者や顔馴染みの関係になれるように配慮し、職員が利用者へ均一した質のケアが継続できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度や希望に応じた学びの機会を設け、積極的に内外の研修に参加できるようにしている。(全国グループホーム協会主催の研修会、香川県グループホーム協会主催の研修会、交流会など)	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川県グループホーム協議会主催の相互評価研修、全国グループホーム協議会研修などの外部研修を通じて、同業者との情報交換や職員交流を行い、サービスの質向上が図れるよう取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	母体、協力施設との交流会、親睦会などの機会を保持し、各職種の人達と交流することでストレス解消ができるよう配慮している。また、職員にストレスがたまらないよう、いろいろな職員の困り事相談については、管理者が個別に相談の時間を設けて対応している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全職員に各々の能力に応じた県内外の研修会に積極的に参加させることで、意欲や向上心につなげたが、個人能力の差(社会人としてのマナーに乏しい)が激しく、対応に苦慮することが多くなってきている現状が見られる。	○ 新人職員などの個人能力の差(社会人としてのマナー、生活者としての常識)が激しく個別対応の難しさに苦慮している。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族などから相談を受けた時は、必ずご本人にホームに来ていただく機会(訪問もあり)を設け、ご本人とのコミュニケーションの中から、ご本人のご意向、ご希望を伺い、それに沿ったホームでの生活環境づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、訪問の機会では、家族などが困っていること、今まで介護してきた経緯に共感すると共に、労いの言葉をかけ、家族などのストレス発散ができるようなコミュニケーションの場を提供できるように心掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を大切にし、ご本人が従来から生活基盤としていたサービスで一番必要と思われるサービスを重視し、その利用については、できるだけご意向に沿い実施できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が不安を感じているように思える場合には、体験入居できる機会を設けて、ご本人とホーム職員や他利用者との馴染みの関係づくりの保持に努め、ご家族と相談しながら、ご本人がホームへの入居への不安がないよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から美味しいご飯の炊き方(おくどさん利用時)、糟漬け、洗濯物の干し方、花の生け方、お茶の入れ方、ひな飾りのし方など昔からの習わしについて、教えていただいている。また、畑の野菜作りでは、支柱たて、水やりなどで共に育て、収穫の喜びを味わっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や近況報告では、利用者の状況をお伝えし、笑顔の増えたこと、歩行状態が良くなったことなどには共に喜んだり、排泄への対応、お好きな髪形、衣類については、お知恵を拝借しご利用者の生活支援においてご協力いただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時には、ゆっくりと話ができる場をつくり、行事時には参加を呼びかけ、ふれあいの機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	勤めていた頃と同僚や近所の人との面会時には、自室でゆっくり話ができるようコーヒーなどでおもてなしをしている。お気に入りの美容院に出かける人もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間関係の見守りを行い、時に介入仲立ちをし、仲良く気持ちよく生活できるようにしている。また、散歩などの外出支援時には車いすを押してあげる、荷物を持ってあげるなど利用者間でお互いに助け合っている姿が見受けられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院入院時は、他利用者と職員が一緒にお見舞いに行き励ましている。また、退所されたご家族が、訪問してくれたり、ご近所の認知症でお困りの家族をホームへ紹介していただいたりして、今も良い関係の中で付き合いを深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩、趣味などでリラックスされている時間帯に、さりげなくご本人の思い、意向をお伺いして対応している。意向が理解できづらい場合は、センター方式(C-1-2等)を活用して、職員がご本人が言われた言葉、姿を思い浮かべ検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から、利用者の背景について提出してもらい、ご本人の生活歴、環境を知っておく。また、入居後ご本人の言葉、対応で知りえたことを、提出されたバックグラウンドに記入して、できるだけ正確に把握できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝のバイタルサインのチェックや日勤、当直などの申し送りなどで身体状況を把握している。また、生活実行表ではご本人の生活(ご本人のホームでの役割、希望される外出ができていくかどうか)が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は本人・ご家族の参加の基で(参加できない場合はご意向を記述していただく)、作成している。また、参加できない職員についても、その方に対しての意見、思いなどを書面で記述してもらい介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人が出来ること・出来ないことシート、生活実行表を基に通常、3か月に1回の見直しを行っている。また、定期的にご家族に近況を報告すると共に家族、利用者の状態確認を行い、状態変化時は、ご本人、ご家族との意見を密にし見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や気づきノートには、利用者の言葉を具体的に記入して職員同士が状況把握が出来るようにしている。日々の申し送りは、口頭だけで行わず、書面での共有を心がけ、介護計画の見直しに活かしている。	○	職員が記載する気づきノート、工夫はまんねり化してきている現状改善と職員の文章力が向上するよう、適切な書面記載への実施に向けて指導しているところである。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症の方が入居時、混乱する可能性があると考えられる場合には、家族の方と相談しながら、ホームでの体験期間を設けて対応している。車椅子などの使用者で通院などにリフト車が必要な場合は申出書記載の上、職員を同行させ車両送迎している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域とのふれあり祭り、陶芸教室、市主催の健康フェスティバルに作品を出品し、地域の方々と一緒に楽しめる機会を生みだしている。	○	もっと、地元の資源の活用ができるよう、自治会、利用者、家族と共に考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所の相談員さんからの紹介で、利用者のストレス解消、安らぎの空間を生み出すため、ボランティア「シルバー癒しタッチの会」に来ていただき利用者から好評を得ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員との交流の機会は少なく、電話などでの連携はとっているが十分とはいえない状況下である。	○	地域包括支援センターとの連携がうまく取れ、グループホームに対しての協力体制が深まるように努力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切に、それぞれの主治医に相談できる体制を確保していると共に、協力医療機関などでの緊急時体制にも考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医、地域の医療機関と連携し、診断、治療が受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師が在中しており、かかりつけ医の看護職とも相談しながら、利用者の日常的な健康管理や緊急時の対応が適切に行えるよう支援体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、馴染みの職員や利用者が面会に行くなどし、安心して治療できるように配慮している。退院時は看護サマリーや関係者との連携を取り、支障なく過ごせるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの利用時に、重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人、ご家族にご意向を伺っている。また、重度化した場合は、その都度、かかりつけ医との連絡を密にした上で、ご本人、ご家族の意向が反映されるように書面にも記載していただけるよう配慮している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が重度化、ターミナル期にさしかかると、かかりつけ医などが判断した場合には、ホームで「出来ること、出来ないこと」を利用者、家族、職員で具体的に話し合いの機会を持つ。その上で、かかりつけ医との連携を図りながら支援していくようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現状の介護要約やケアプランなどを手渡し、情報交換を行い、利用者の生活への支障がおこらないように配慮している。また、移行先で、利用者不安事項などが発覚した場合は、ご家族、移行先の職員などからの助言、相談も受け付け対応している。	○	今後、本人の住み替え時のダメージ防止を視野に入れたより良い情報のあり方について検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームとして、個人情報保護への取扱(記録の持ち出し禁止など)に気をつけている。常に利用者に対して誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応を重視し、ロールプレーなどで職員の勉強会も行い、本人のプライドを傷つけないケアのあり方を、常に職員同士で検討できる機会を設けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が希望に沿える日々を過ごせられるように、外出支援を行ったり、好みの髪型、洋服などについてもできるだけ本人の意向を伺い対応する場面づくりを行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者の起床、入浴、排泄、外出支援などその人、その人に合わせた状態、ペースで生活ができるような対応を心がけて取り組んでいる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望によりお化粧品や髪をとくなどの時間を設け、職員が手伝っている。理美容は、ホームまで出向いて来てくれる。また、職員、家族により、馴染みの店にお連れして対応する時もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、利用者の自主性を尊重した分担の中で職員が協力して行っている。また、季節感溢れる食事となるように利用者本位の献立会議を行い、買物に出向き利用者の希望を取り入れた楽しい食事となるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつについては、本人がその日の状態に合わせて選ぶことができる。また、タバコについては、ゆっくり楽しめるように、喫煙席を設けて対応できるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ対応はできるだけ避け、一人ひとりの排泄状態を把握し、さりげなく声かけ誘導することによりトイレでの対応が出来ることを目指して職員が排泄支援に取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望、睡眠障害を予防するためなどにより、日中や夜間入浴を実施している。また、希望により小規模多機能ホーム、温泉にも出かけ、好みの入浴ができるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者に疲れた様子が感じられた時は、声をかけ、本人がお気に入りの椅子(籐椅子、ベンチなど)や畳スペースで休めるように配慮している。また、生活習慣や体調などで本人のお部屋で午睡する人もいらっしゃる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、春夏秋冬の季節行事の司会進行や意向に応じた役割、趣味などが生き生きとできるよう配慮(陶芸、折り紙、習字、歌など)している。また、クリスマス会では、毎回、利用者全てが出演できる演劇、コーラスなどを家族、地域の方々にご披露する場を設けて利用者の楽しみの一つになっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族の了解のもと、買物時は、自分で支払いをし、できるだけ金銭感覚が保持できるようにしている。	○	全利用者が金銭所持ができるよう家族の協力を仰いでいるが、「なぜ、小遣いが必要なのか?」「ばあちゃんにこれ以上お金を費やせないかな…」など、まだ家族の理解が得られない方もいる。ホームとしては、在宅での生活に向けての支援を継続していきたくと考えているが……。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日1回は必ず屋外に出向き、近所の人達との井戸端会議への参加や、季節の移り変わりを感じていただくことを目標に、観音様参りや散歩をし、利用者の希望により週に1回以上はドライブをかねてのスーパーでの買い物も支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に墓参りや外食、兄弟会などに出かけている。また、四季の移り変わりが感じられるよう、丸亀、坂出方面へのドライブなどにもお誘いし出かけている。	○	まだまだ、利用者の行きたいところに出掛けられていないと考えられる。また、利用者の家族とも出かけられるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、職員が電話の取次ぎ支援を行っている。また、家族、知人に暑中見舞い、年賀状などについては、自発的に取り組めるよう支援している。手紙を書き自由に投函できるよう支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、居室で湯茶サービスをし、ゆっくりと家族や知人達と話が出来るよう配慮している。また、居室以外の共用スペースでも和やかに談話できるような雰囲気づくりを心がけている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で、禁止事項の確認を行ったり、ロールプレイを通して話し合う機会を持っており、全職員に周知できているため、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、常に鍵をかけない生活を目標とし、利用者が不穏にならない環境づくりに努めている。職員は常に利用者に気配り、目配りし、自由に出入りでき密室化しないホームを目指している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の連絡を密にして、利用者の状況把握を徹底すると共に、利用者の徘徊などがある可能性の不穏時間帯を、職員が予め予測しておき対応する。また、職員の力量により、さりげなく利用者の動きや様子を見守れる位置を考え業務につけるよう努力している。	○	さりげない位置での利用者の動きや状況確認の徹底ができづらい状況下にある。利用者の次の行動に向けての察知力が養われるよう、全職員のケアの質を高めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	折り紙などに使うハサミは本人自身が所持しているが、包丁や洗剤などは、使用時に手渡し使用後は手の届かない場所に保管し、安全を確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起りうると考えられる場合は、職員がニアミス報告書を記載し、事故防止対策委員会で検討し、再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の状態緊急時には、状態報告書を用いて、緊急連絡先に明示されている通りに状態説明、報告している。また、緊急時対応マニュアルにそって、職員は定期的に緊急時の対応について研修をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災、火災訓練を行っているが、運営推進会議での話し合いを機に自治会自衛防衛会議にも参加できるととなり、今後地域との協力が得られる防災訓練が可能となってくる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の危険性のある利用者に対しては、家族に、入居中考えられるリスクや対応策の十分な説明を行い理解を得ている。嚥下障害のある利用者には、職員が横につき介助している。また、事故防止委員会やケアカンファレンスなどで話し合ったことを、サービス担当者会で家族にも話し、協力を得ながら事故防止に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝食後、バイタルサインのチェックを行っている。また、日頃よりケアワーカーが行動や表情の観察を行い異常時には、看護師、主治医に連絡、相談し指示を受けている。	○	利用者の応急処置などの研修を増やし、利用者の安心、安全な生活に向けての質を高めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師指示のもと、与薬管理表でチェックを行い服薬管理をしている。また、薬情報により副作用、用法、用量についても看護師、ケアワーカーも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から、繊維の多い食事や水分補給に努め、おやつには芋類を使ったメニューなどの工夫をしている。一人ひとりの排便の状態を把握しながら、センナ茶飲用、散歩への誘い、リズム体操などの対応をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、歯磨きの時間が習慣となるように「歯磨き体操」などを取り入れ、各自愛用のハブラシで清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を確認し、利用者の栄養バランスを考えると共に摂取状況に努めている。水分の大切さは、全職員が周知しており、散歩や入浴後は特に多めに摂取していただいている。管理栄養士が常にいるので職員に研修を行っている。(1日1500kcal,水分1500cc目安)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策についてのマニュアルを作成し、職員に周知している。特にノロウイルス、インフルエンザ流行時には、訪問者の手洗い、うがいは、ご協力をお願いしている。感染予防対策委員会を組織し予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板の洗浄、消毒は、マニュアルにそって行っている。食材は新鮮で安全な物を使用し衛生管理の徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻りは、プランターに草木、野菜の苗を植え、ロープを設けている。玄関前にはベンチを置き、地域の人達と気軽に話せるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所には水屋を置き、玄関やフロアには、季節のお花を生けるなどしている。トイレの1つは木製の扉を使用し、談話コーナーには、和コーナーを設け、地域から寄贈されたピアノをおいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭での喫煙コーナー、少し離れた場所では、外の景色を見ながら一人でくつろげる畳コーナー、気の合った人達と過ごせる民家(うらら亭)が活用できる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、愛着のある物をホームでも使っていただけるよう家族に説明し協力していただいているので、利用者各々が落ち着ける居室となっている。本人の好みで、手作りの作品や思い出の写真を飾ってある利用者もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分では、午前10時、午後3時頃の最低2回は必ず換気を行うようにしている。居室の窓は、天気のよい日には開けておく。排泄介助を居室で行う場合は必ずカーテンを閉め、換気扇を回すなどの配慮をおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、一人ひとりの状況に合わせたひじ付き椅子、ベッドの種類などに配慮し、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札を用意している。トイレは、その方の使いたれた名前で(トイレ、便所、御不浄など)表記し、その都度対応している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の外周リ、中庭、広いウッドデッキを活用して花を植えたり、利用者家族、知人との語らいの場、憩いの場としての民家(うらら亭)の活用、利用者が四季を感じられ、昔ながらの力量が発揮できるように畑を作り、収穫の喜びを感じられるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(環境作り) 畑、庭、民家などを活用し利用者が在宅と同じ空間を感じるよう配慮している。
 隣接地には、医院があり緊急時の対応などで利用者の安全が守られている。
 (ケアプラン) 本人、家族参加のもと、職員全員で取り組んでいる。
 いつも利用者、職員、家族などの笑い声が聞こえ、お互いが支え合うホームを目指して取り組んでいる。